女子商業と鈴木家のかかわりについて

▲姫百合会が鈴木よね刀自の墓参。
昭和59年５月12日、灘区祥竜寺の鈴木よね刀自坐像前で姫百合会（岡田文恵理事長）の有志たち。

鈴木よね刀自ご在世中に残されたものに神戸市立神戸女子商業学校がある。現在市立神港商業高校内姫百合会に依って引きつがれ多数の生徒を社会へ送っている誠に輝しきことであります。

去る五月十二日、計らずも姫百合会理事長岡田文恵さんの御申出に依って理事の方々五十余名、鈴木家菩提寺である祥竜寺に於いて鈴木よね刀自の法要をしめやかに行われ、それから例の「海鳴り止まず」のビデオ映画に依ってよね刀自の面影を屢し偲んでいただいたことは誠に感激に堪えない。

金子翁と十六羅漢

去る七月十日神戸新聞社に依って須磨一の谷鯖大師に在る金子翁ゆかりの中国十六羅漢が世に紹介された。緑の塔を少し北に登った真言宗・貞照寺（鯖大師）の本堂の東横に日焼顔の十六羅漢を一列に並べられ、中央に釈迦如来が安置されている。（この羅漢像とは別のもの）。

これは去る大正八年九月金子さんの寄進に依ることが側面の碑に明記されている。造立は中国で行われたもの、江戸時代以前のものと考証されている。終戦後筆者一早く見つけカメラマン連中が喜んでシャッターを切った記憶がある。像の中には竜を抱いたもの、佛をそばに置いたもの、両マユの毛が胸まで垂れ下がったもの、その面相も冥想的のもの、笑いあり怒りあり金子さんのお眼にとまっただけで自然に興味が湧いて時の過ぐるのも忘れるほどの名作である。

十六羅漢は仏法を守護することを契った十六人の仏弟子であることを意味している。

雲が雲を呼ぶ雷鳴の辻羅漢

編

（第3種郵便物認可）

一ノ谷

街道いまむかし 巻二 兵庫から明石

★ 10 ★

喜怒哀楽示す16羅漢

「須磨簾（すだれ）西須磨の香がし、波の音も聞こえたの家ごとに常に表の方簾を垂だろう。「須磨すだれ」はこるるなり。むかし大宮人、此この名物で、長さが約一間すまの里海士（あま）の苫家（一・八㍍）幅約三尺（〇・（とまや）に入らせ給い、其九㍍）あり、竹を二つ割りに時、家毎に翠簾したものを細縄で編んだもの（みす）をかけしだ。昭和四十年ごろまで持っなり。其遺風今にている人もいたが、現在では ありけるとぞ」知る人も少ない。礒馴味噌（摂津名所図会）（そなれみそ）潮雑炊（うし

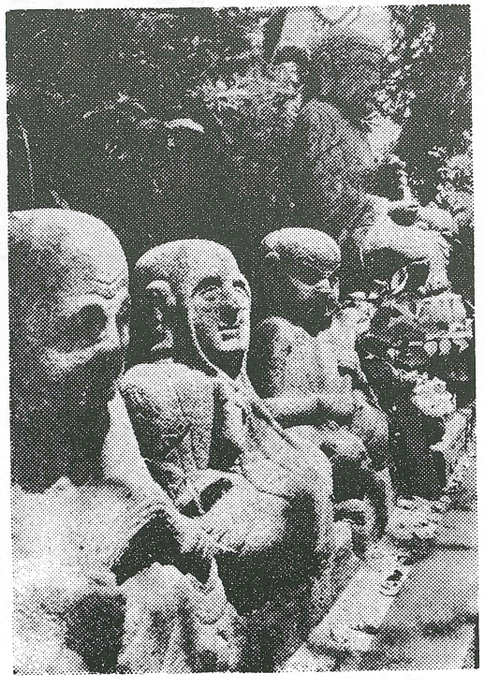
国鉄須磨駅の北側、国道2号線との間に二㍍足らずの細い道がある。土地の人が中道と呼ぶ古い道だ。いかにも海辺の村らしい風情を備えており、これまでも再三、いろんな書物で書かれている。いまでも古い家があちこちに残り、昔の芝居小屋「都座」の跡というのもあった。

相常の歩いたころは、すだれをつるした家が並び、すぐ近くは松林と海岸だった。潮おぞうすい）など庶民の味も絶えて久しい。

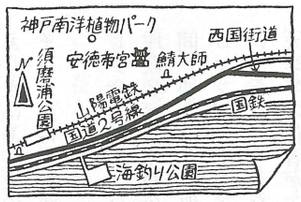
ここから西は浜辺の道である。北からは断がい絶壁が迫り、大昔の山陽道は多井畑を回したといわれる。国道の交通検問所のところにある小さな川が一ノ谷川。深い谷が広がっていた。「名所図会」には「霖雨（りんう）には流水あり。夏月夕立の跡には、鮎（あゆ）多く落ち来って、里の童（わらべ）みなこれを拾う」と書かれている。かつての渓谷も宅地開発の波に洗われて大きな住宅地である。

「一ノ谷も変わりました。いっぱいあった異人館ものうなって、家ばっかし増える。どうしようもありませんナ」と、散歩していたお年寄りは嘆く。そういえば神戸南洋植物パークの巨大なドームの横にあった立派な異人館もいつの間にか無くなった。「こんなに異人館ブームになるんだったら残しておきたかった」と管理の人が悔やんだ。

一ノ谷の住宅地の下に寺がある。真言宗八海山 貞照寺で、本尊の弘法大師木像が右手に鯖（さば）をさげているところから「鯖大師」といわれる。いろんな花の咲き乱れる山道をすこし登ったところで、門を入るとすぐ弘法大師らの石仏がずらりと並んでいる。本堂の右手にも変わった石仏があり、十六羅漢という。鈴木商店の大番頭だった金子直吉氏が大正八年に寄進したもので、中国・明時代の作品だといわれる。笑ったり、怒ったりしている羅漢さんは、変わりゆく世の中をどう思っているのだろう。



珍しい中国の羅漢さんが並ぶ鯖大師＝神戸市須磨区一ノ谷町で



「播磨巡覧記」より

西須磨、明石へ三里、垂水迄一里半〇上野 山福祥寺。須磨寺というは是なり〇浜須磨〇一ノ谷、浜須磨より五町ばかり西。海道の右手也。此谷登れば四町ばかり。谷幅二十間。両岸岩の高さ十二間余也。又此谷より波打際迄凡一町ばかり也〇鉄枴仙人の栖（すみ）し所也という。